

成果報告書

再犯防止に関する地方自治体との連携

～島根あさひ社会復帰促進センターでの取り組みを事例に～

1. 概要

社会安全政策論研究会に所属する学部生 3 人と、小笠原和美教授の合計 4 人で島根あさひ社会復帰促進センターを訪問した。当初、研究会の学部生は 7 人の参加予定だったが、新型コロナウイルスの感染拡大防止の為、卒業プロジェクト 2 に取り組んでいる 3 人のみ訪問の許可が下り、参加した。本報告書にて、研究成果とその活用について記載する。

2. 活動目的

島根あさひ社会復帰促進センターは全国でも珍しい PFI 刑務所（民間企業が刑務所運営に参加する刑務所）であり、IT 技術や最新の警備機器などを活用した近未来的な施設である。センターでは他の刑務所では行われていない、様々な更生プログラムが行われている。これらの取組が、いかにして真の反省や再犯防止に繋がっているのか、また、地域住民や地元企業・団体が「受刑者」「犯罪者」に向ける眼差しに変化があるのか、などについて、現地に赴き、施設職員や協力者からのヒアリングを行うことにより、再犯防止に向けた官民連携の在り方についての知見を得たいと考えた。

3. 島根あさひ社会復帰促進センターへの訪問

2021 年 11 月 24 日早朝、島根あさひ社会復帰促進センターの職員の方々と一緒に施設へ向かった。その途中、更生プログラムの一つである、施設外の農作業地の見学を行なった。石見地方の豊かな自然の中にある為、地域との共生がより一層感じられる作業地であった。

施設へ到着し、初めにセンターの職員の方々から島根あさひ社会復帰促進センターの概要について伺った。地域と共に創る施設を目指しており、地域との共生を特に大切にしているかについて、改めて学んだ。

次にセンター内にて行われていた職業訓練、更生プログラムの様子を見学した。職業訓練の基礎科目として訓練生全員はビジネスの基礎を学ぶ「ビジネススキル科」や、就職に必要な基礎的な IT スキルを習得する「PC 基礎」などの科目がある。また、専門科目では、「理容科」や「調理科」などがある。「調理科」

に所属する訓練生が作ったコッペパン、「おコッペ」は月に1度、パン給食がなかった地元小中学校に提供されている。地元の小中学生から感謝の手紙をもらった時にはやりがいを感じ、訓練生のモチベーションになっているようだ。

更生プログラムの一つである、セラピューティック・コミュニティ(以下、TC)が行われている様子も見学した。様々な問題を抱える同士が、相互に影響を与える事で新たな人間関係を構築し、問題を対処する方法などを身につける事を目指している。当日は与えられたお題に対し、訓練生は挙手をして自身の意見を述べていた。多くの人が挙手をしており、良い雰囲気の中行われている様子だった。

4. 期待される活用方法

島根あさひ社会復帰促進センターの職員や、法務省の方々からの説明を受けながら見学をしていたが、その際に訓練生にとって他者との繋がり、他社から評価・感謝される事がいかに大切かについて教わった。参加した学部生3人は今学期、卒業プロジェクト2を履修している。それぞれ、刑務所出所者の再犯防止に関する官民連携、児童虐待の再犯防止、再犯率の高い性犯罪(痴漢)の対策について研究している。研究テーマは異なるものの、受刑期間を通じて再犯防止に向けた最先端の仕組みについて学んだ事で、それぞれの研究テーマをより多角的に見分ける機会となった。

5. 謝辞

本活動の実施にあたり、終始ご指導頂いた小笠原和美先生、島根あさひ社会復帰センターへの訪問に協力して頂いた皆様に心から感謝申し上げます。また、本活動へご支援くださいました、慶應SFC学会に深くお礼申し上げます。